

特許抄録

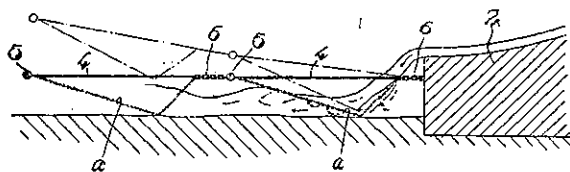
第十九卷第十二號 昭和八年十二月

制流装置

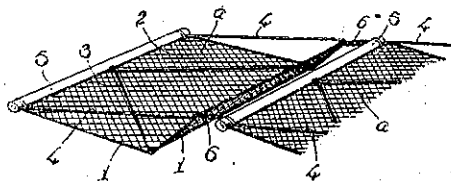
(特許第 102645 號 特許権者(發明者) 萩原俊一氏)

この發明は堰堤水制工又は水門等の工作物の下流或は護岸の床固工として施すもので溢流若しくは射流の水勢を一聯の制流板に依つて漸次互に相殺して洗掘力を失はしめ様とするものである。實施例の一つは第一圖、第二圖に見る様に側面倒へ字形をした四角形の骨棒(1)に鐵網(2)を張り、且つ張線(3)(4)を施して堅固にした制流板(a)の一側に丸太の如き浮子(5)を固着し、その制流板の2個又は夫れ以上をロープ連鎖その他で自由に連結し、この一聯の制流板を堰堤(7)等の下流端に環で連結するものである。

第一圖



第二圖



地下水流の状態を調査する方法

(特許第 102703 號 特許権者(發明者) 鹽田岩治氏)

この發明は貯水池、温泉、井戸等の底部近くにフロレクション又はその誘導體の溶液を導入してこれを水泉と混和した後その貯水池、温泉等以外の適當な數箇所の地點で水泉を汲み取り各所の水泉中に於ける前記溶液の有無及び含有程度等を調査比較して地下の斷層その他地層の龜裂等に於ける地下水流の状態を調査する方法である。

ポルトランド・セメント製造方法

(特許第 103715 號 發明者 小室萬五郎氏, 眞田義彰氏, 横井太郎氏)
特許権者 盤城セメント株式會社

この發明は從來ポルトランド・セメント原料として使用されてゐなかつた片麻岩、花崗岩等の如き未だ風化分解しない岩石を熱分解して後に石灰石と調合粉碎して原料調合物を造りそれをセメント燒成窯で燒成してポルトランド・セメントを製造する方法である。

鐵及鋼面上に防銹層を形成する方法

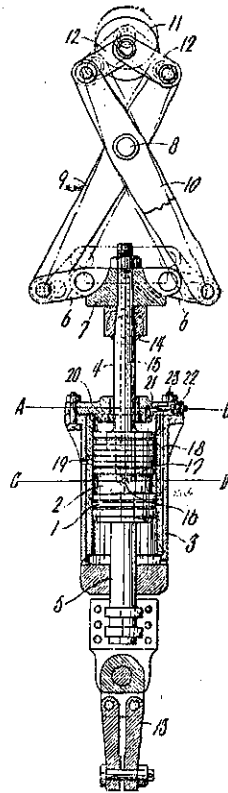
(特許第 102727 號 特許權者(發明者) 立澤勇吉氏, 大澤重藏氏)

この發明は金屬又は非金屬の水溶性磷酸鹽の水溶液中に水溶性の有機性非電解化合物を混溶して鐵及び鋼の清淨面を處理しその面上に不溶磁性磷酸鐵鹽の防銹層を形成させる方法である。

杭 拔 機

(特許第 102758 號 特許權者(發明者) 矢部繁氏)

この杭拔機は、ピストン桿の僅かの上昇も直ちに滑車に傳導せしめて杭の引抜きを容易迅速に行はんとするものであつて、シリンダー(3)内に嵌合したピストン(1)に設けたピストン桿(4)の上部には、下方だけに屈折する連片(6)を有する支盤(7)を、下部には連結具(13)を、夫々定着し、前記の連片(6)は交叉桿(9)、(10)を介して捲揚滑車(11)の軸に樞着してゐる連片(12)と連結させたもので、前記ピストン上部に於けるシリンダー内に給汽し次いでこれを排氣させる事に依りシリンダーの下端でピストンの下端を連續強打せしめ前記連片(6)及び交叉桿(9)、(10)を介して滑車を順次捲揚げしめるのである。



混 合 セ メ ン ト 製 造 法

(特許第 102797 號 發明者 小柳信三郎氏 特許權者 大岩定藏氏)

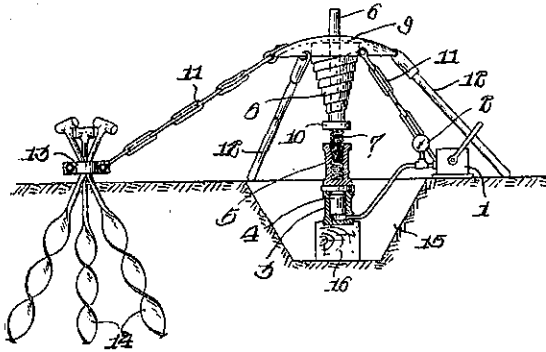
この發明は可溶性珪酸 30% 以上含有し然も液體を吸収保留する性質を有する物質に豫め鹽化石灰濃溶液を吸収せしめこれをポルトランド・セメントに粉碎混合するか或は燒塊に混合した後粉碎する方法であつて、セメントに鹽化石灰を單獨に混合する場合の不便を除き且つセメントに對する鹽化石灰及び可溶性珪酸の効果を充分發揮せしめんとするものである。

地質、杭等の載荷重試験装置

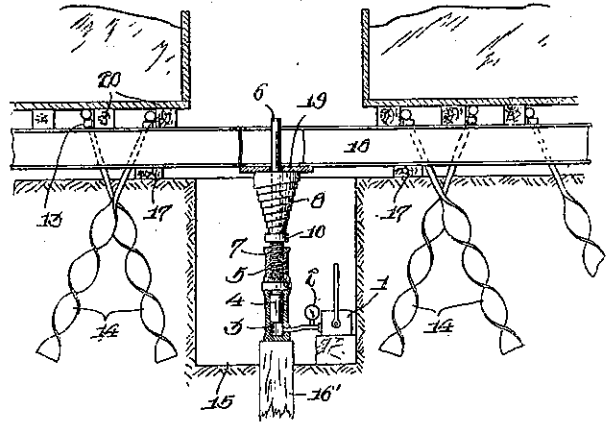
(特許第 102801 號 特許權者(發明者) 岡喬平氏)

この發明は(第一圖参照)捻子棒(14)に依つて地上に定着した座板(9)と水壓ジャッキ(1)のピストン(4)との間に彈機(8)を介在せしめた地質、杭等の載荷重試験装置で、第二圖は載荷重の著しく大なる場合の變形である。ポンプの作働が停止し杭又は木塊が沈下する時に彈機が伸張して壓力の急激なる降下を生ずる事を防ぐから壓力の讀を正確ならしめる事が出来る。

第一圖



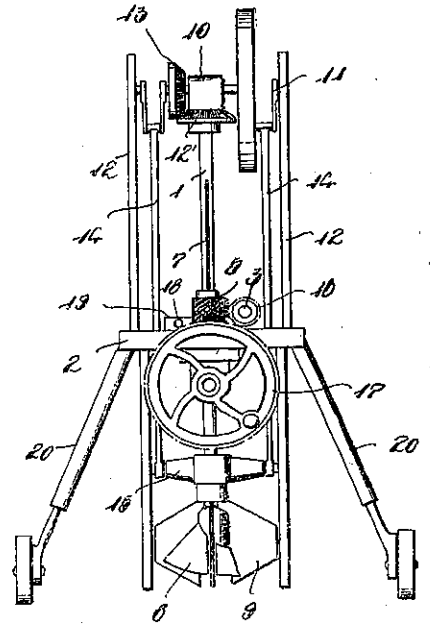
第二圖



坑 掘 機

(特許第 102889 號 發明者 福本千喜知氏, 松本貞順氏
今西豊一氏
特許權者 今西源治氏)

この坑掘機は、掘鑿刃を廻轉すると同時にこれに上下運動を與へて土壤の掘進を容易且つ迅速ならしめ様とするものであつて(右圖参照)、大齒車(7)を把手に依り廻轉する時は原動軸(3)が廻轉しこれに伴ふて回轉軸(1)は直交齒車(4)、(5)に依り廻轉しその下端に取付けた回轉鑿刃(8)及び掘鑿刃(9)を廻轉せしめる。他方回轉軸(1)に取付けた軸承(10)に軸支せられる曲柄桿軸(11)が廻轉し連桿(14)を上下動させる。従つてその連桿に連なる掘鑿刃(9)は昇降動し土壤を斷續的に衝撃してこれを軟化せしめるのである。

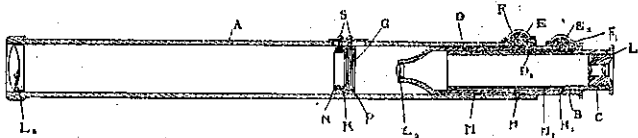


測 距 儀

(特許第 102947 號 特許權者(發明者) 中村 壽市氏, 河上 暢輔氏)

この測距儀は、簡単な装置を用ひ物體を觀測しながら直ちに距離を読み得る様にしたもので、物體の像がレンズに依り生ずる場合に物體とレンズとの距離が變化すれば像の位置も變化することを利用したのである。第一圖中 A は鏡筒で一端にレンズ L_1 を、他端に顯微鏡を嵌挿してゐる、G は目盛板である。目盛板の位置は計算又は實測に依り、距離を測定せんとする物體の像がレンズ L_1 の後方何程の位置に生ずるかを精密に定め、測定せんとする數個の基準に就てその像の位置相互の間隔を求めその間隔に相應する位置に目盛を施した透明板の面が位置する如く装置するのである。以上の装置に依りレンズ L_1 によつて生じた物體の像を顯微鏡を出入調整し像の最も鮮明に觀測される際に最も鮮明に現はれる距離目盛(第二圖参照)を讀んで直ちに距離を知り得るのである。

第 一 圖



第 二 圖

